

1 年生高大連携授業

令和3年1月12日（水）14時20分～16時00分

テーマ 「 地域防災・減災向上のために私たちができること 」

講師 「浦川豪」

1 授業の概略

- ・防災・減災の枠組みについて学ぶ
- ・災害関連情報について学ぶ
- ・防災・減災対策のための地理空間情報の活用
- ・地域防災力向上のために高校ができること（事例）

2 所属部・科等

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科

3 自己紹介

1995年、横浜国立大学工学部建設学科卒業。同大学院工学研究科計画建設学博士課程修了後、防災都市計画研究所特別研究員、京都大学防災研究所研究員、同大生存基盤科学研究ユニット特任助教を経て2011年4月より現職

4 専攻分野

災害情報システム論、地理空間情報適用技術、災害対応業務マネジメント等

5 研究内容

東日本大震災など災害発生直後から多くの被災地へ赴き、自治体職員と連携し、災害対策本部における地図（主題図）を利用した情報集約手法の開発、被災者生活再建支援のための位置情報付データベースの構築とその活用等実践的な研究活動を行ってきた。被災現場で役に立つ情報技術を活用したアプリケーションの開発及び平常時の研修プログラムの開発等を実施している。

6 附属高生にメッセージ

誰しも「災害」は発生して欲しくありません。しかし、いつ、どこで、災害が発生するのかわかりません。自分自身、自分の大事な人を守るためにやるべきことを皆さんと議論、共有しましょう。

1年高大連携授業 1月12日(火)

「地域防災・減災向上のために私たちができること」

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科

准教授 浦川 豪 先生

1 授業内容

1) 概要

- ・防災、減災の枠組みについて学ぶ・災害関連情報について学ぶ
- ・防災、減災対策のための地理空間情報の活用・地域防災力向上のために高校が出来る事

2) 具体的な内容

- ・東日本大震災後の兵庫県立大学における支援活動

学生は、がれきの撤去やカフェの建設、被災者の心のケア、農業復興支援などを行った。大学で学んだ知識を活用しようとしたが、それ以上に現場でしかわからないことがたくさんある。例えば、支援をしに行ったが逆に支援者から勇気付けられることが多く、人ができることは限られていることが実感できる。

- ・防災教育の3ヶ条

「恐怖、脅しによる情報」「教育・知識を正しく知る」「共感コミュニケーション」

- ・ガス・水道・電気の復興の早い順について

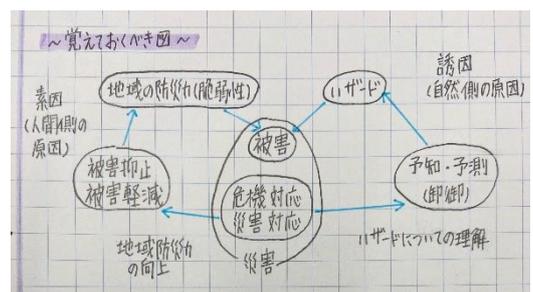
電気、水道、ガスの順番で復興する。電気が1番の理由は、電柱が地上にあるので、被害をうけても対処しやすいため。水道は地下にあるので復興しづらい。ただ、必ずそうなるとは限らない。民間のガス会社が早めに支援し水道より早く復旧することもある。

- ・震災遺構

次世代に震災の被害の大きさ、悲惨さを伝えるため、被害を受けた建物を保存すること。これらを残すことで大災害の記録・記憶の伝承・慰霊・防災・減災の啓発、街づくりの効果が期待される。

- ・防災・減災のカスタマイズ

自分が印象に残っているものや大切なものをランドマークとしやすい。生活圏を図示すると普段自分が何をランドマークとして生活しているかわかる。自分たちが暮らしている地域で発生する災害を想像できなければ、具体的な防災・減災の対策をすることはできない。地域での地理的問題点が明らかになれば防災・減災の役に立つ。



2 感想

・防災についてはある程度知識がありましたが、減災については全く知らなかったもので、良い経験になりました。今回学んだことをもとにして、家族と話し合ってみようと思います。

・災害はないほうが良いが、もし起こったら対処できるようにこの講義で学んだことを日々の生活の中で役立てていこうと思います。

記録者：1年4組生徒

